

令和7年度 全校研究アンケート集計結果

研究部

令和7年度の全校研究では、次の研究仮説のもとで進めてきました。

国語科や各教科等を合わせた指導の授業において、学習指導要領の「内容」及び重点事項に基づき、次の手立てを講じることで、「国語科における学びを広げる姿」を育むことができるであろう。

【柱1】 学習指導要領の「内容」に基づいた学習状況の把握

【柱2】 教科等横断的な視点による指導計画の作成

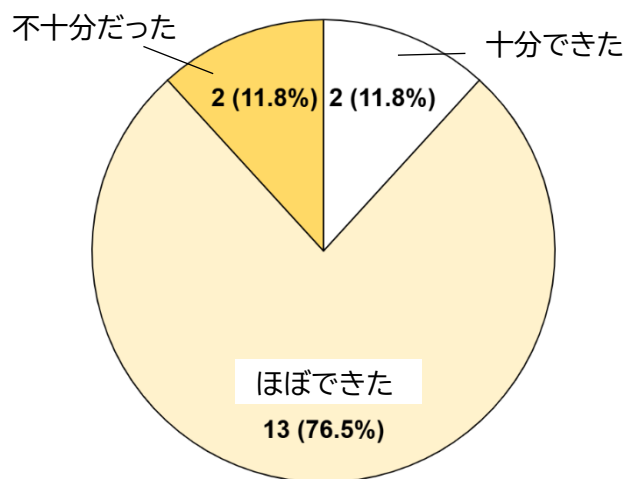
【柱3】 学習指導要領の「内容」に基づく国語科及び各教科等を合わせた指導における授業づくり・授業実践

【柱4】 個別の達成状況の明確化

★1 令和7年度の全校研究について、お答えください。

次の設問項目について、該当する評価に○をつけてください。

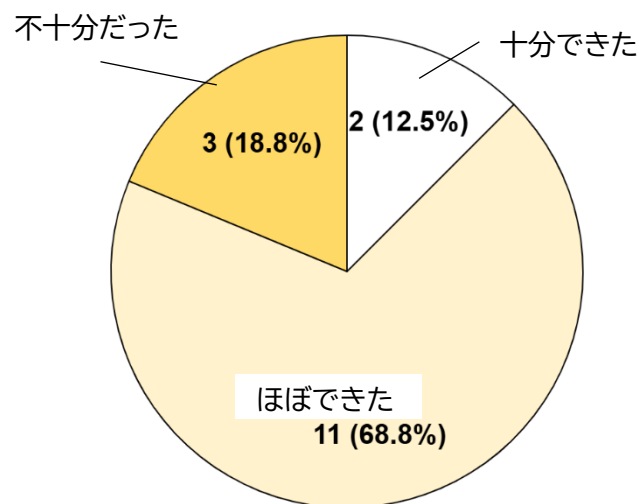
Q1 (柱1について) 学部研究を通して 観点別学習評価表を活用して 学習指導要領の理解に基づく学習状況と課題を整理したり、児童生徒一人一人の段階、目標を設定したりすることができた。



- 春に学習内容表等を基に実態把握ができた。
- 学部全体で観点別評価表を活用しながら、児童の段階や目標を確認して共有できたから良かった。
- 生活単元学習で使うワークシートを生徒一人一人の実態、能力、課題に合わせて作成できた。
- 教科横断的に課題を共通理解し、実践につなげることができた。
- 前担任から情報を得ながら大まかな課題を整理できた。

- T2として実践した研究授業についてはほぼできたと考えている。
- 一人一人の段階を把握することができ、実態にあった内容で指導できた。
- 学級担任間、学部職員間で話し合いをもち、生徒の段階や目標を検討・共有できた。
- 観点別学習評価表を活用して、できていることと、少し頑張ればできそうなところの確認ができ、それを踏まえて目標設定ができた。目標設定の際は、観点別評価表の項目を参考にした。
- 一人一人にどのような課題があるか整理できた。自分の考えを表現することが苦手な生徒には誰かに伝えるという目的をもつことで課題に向かうことができた。
- 生徒の実態を踏まえて、学習の目標を考えることができた。
- 研究授業の際に、個別に複数の教師で段階を確認したり、意見交換したりしながら共通理解できた。
- 国語と他教科を関連づけた年間計画を立てていなかったため、不十分だと感じた。

Q2 (柱2について) 学習指導要領の国語科の「内容」に基づいて国語科及び各教科等を合わせた指導を関連付けて単元配列表(下の図参照)や年間指導計画を作成することができた。

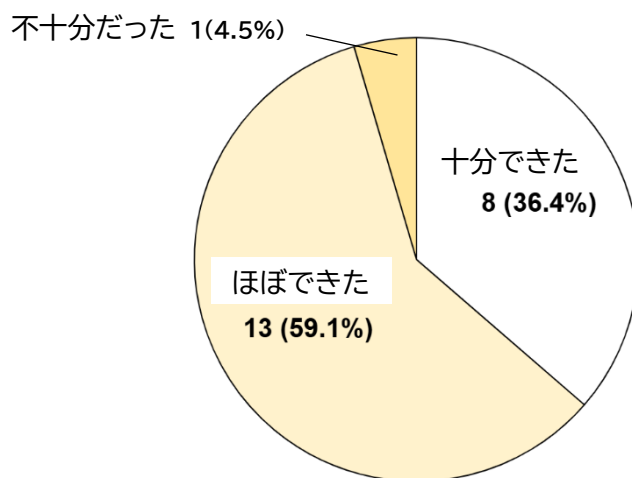


- 国語で「話すこと」について学習したことを、生活単元学習での調理のレシピを説明する活動と関連付けた指導計画を作成できた。
- 作成の時期にまだ勤務していなかったため分からない。
- 作業学習、観光で必要となる力について、内容を精選して国語科での学習内容に反映した。
- 生活単元学習等の合わせた指導で国語科の内容を取り扱った。
- 学部・全校授業研究会等で協議・検証できた。
- 単元配列表を作成することで、聞くこと・話すこと、書くこと、読むことのバランスを見ながら計画を立てることにつながった。
- 不足している内容を合わせた指導の中で取り上げたり、生活単元学習とのつながりを見極めたりすることができた。
- 一部の単元にしばって書く場合は分かりやすいと思う。
- 国語科の目標と生徒の実態をもとに各教科に応じた指導内容作成につながった。指導内

容を考えることができた。

- 初めて作るため意図を理解するのに手こずり、活用までにはいかなかった。
- 各教科、合わせた指導における国語科の関連は明確になったが、作成した後に活用しなかった。
- 年間を見通して、教科横断的に単元は設定できたが、なかなか見返すことが少なかった。
- 内容を整理し、関連づけをはかるのにはよかったが、途中で評価改善しないと、形だけになってしまう。せっかく作成したのもっと活用できないか。

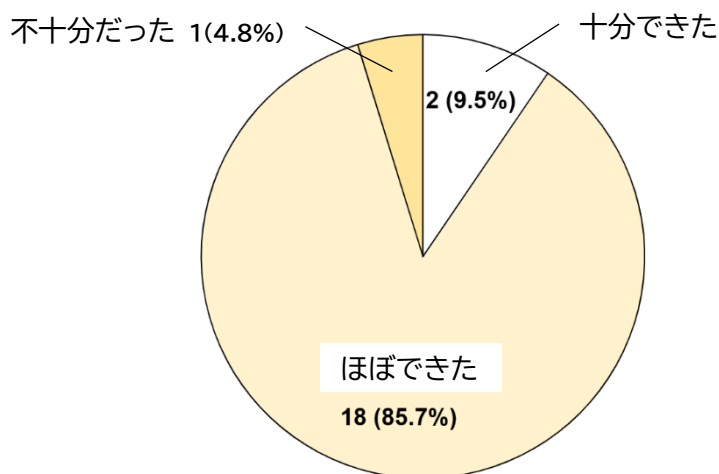
Q3 (柱3について) 全校授業研究会や学部授業研究会、授業を見合う会において重点事項「適切な言語環境づくり」「具体的に考える場面の設定と工夫」を踏まえ、授業者や参観者として授業改善につながる視点を学ぶことができた。



- 各生徒の実態をしっかり把握して、授業を計画している。
- 協議の視点が統一されており、ロイロノートに協議の視点を踏まえ記入することを通して学ぶことができた。
- 生徒同士のやり取りから言葉を引き出して、学びを広げる。
- 授業者として、子どもたちの言葉を引き出すための手立てを様々な視点から学ぶことができた。
- どちらにも当てはまるような内容が複数あった。
- 勤務の都合上、1度しか参加していないが、グループ協議の後、全体会という形が取られており、多くのことを学ばせていただいた。
- 授業づくりを通して、合わせた指導と、国語科双方の要素を取り入れる難しさは感じたが、勉強になった。合わせた指導
- 全校授業研究会での指導助言や先生方からの意見を反映して、授業の振り返りの際は教師からだけでなく、生徒同士で評価し合う場面を設けた。
- 多様な視点から授業を捉え、授業改善に向けた思考を深めることができた。
- 伝えると伝わるは異なり、生徒が分かる言葉で伝えることの大切さ、それを学ぶことの必然性を生徒自身が感じていることの大切さを学んだ。
- 参観者からの意見を参考に、生単との関連や、実態に合った教材(資料)を考えることができた。

- ロイロノートを活用した授業研究会で、たくさんの意見を知ることができた。
- 板書の工夫、生徒の思考を広げる教師の発問の仕方や言葉掛けの工夫を学んだ。
- 生徒の経験や実態に応じた言葉の引き出し方やアプローチを学んだ。
- 対象の児童生徒の発達につまずきへのアプローチの視点、どのように手立てを講じていくのかが分かった。また、学習の基盤となる言語能力の育成を図る取り組みが各学部段階の言語活動、言語環境が整備されてきていると感じた。
- 全校授業研究会の授業づくりにおいては、合わせた指導における言語能力を高めるための、適切な環境について授業者の先生方が工夫しているところが大変勉強になった。

Q 4 (柱3について) 各教科等を合わせた指導(生単や作業等)において、国語科と関連付けたり、単元計画に国語科の内容を組み込んだりするなど、授業づくりについて理解を深めたり、授業実践をしたりすることができた。



- 作業学習に国語科の視点を取り入れた授業を展開したことで、合わせた指導に関する視野が広がった。
- 学部で各生徒の国語の段階など実態を共有することができ、教科等を合わせた指導で国語科の内容を組み込むことができた。
- 生単で調理の説明をする文章を考えたり、説明文の読み方を学習したりする場面を設定できた。
- 教師の意図的な質問が増え、感想発表の内容が深まっていると感じる。
- T2として実施した研究ではできたが、日々の授業ではなかなか難しい。
- 国語で行っていることと合わせた指導とで、関連付けながら指導できた。意識することで、生単の中に、国語科の内容を取り入れられた。国語科で何をしているか、共有する機会を学部研で取り上げるなどした方がよいかもしい。
- 作業学習での販売活動の事前学習では、商品説明や販売グッズの準備等、生徒が学ぶことの必要性を感じながら学習に取り組むことができるように単元や学習内容を計画した。
- 作業学習において、聞くことの大切さを取り入れた。
- 生単と関連付けることで、生徒の課題が整理された。鎌足和紙体験会に向けて、学校の特徴を調べたり紹介文を考えたりすることができた。
- めあてに応じた振り返りになるよう取り組んだ。

- 生徒と対話しながら、つまずきやずれに対応できるようにした。自分の気持ちや考えを多様な方法で他者に伝えたり、他者の考えに触れたりする機会を大事にした。劇化のように役を決めると、成り切ってパフォーマンスが向上したと感じた。
- 授業づくりにおいては、単元計画を作成する段階から、国語科の内容をどのように組み込むかについて考えることができた。
- 年度始めに国語科と関連付けていくことを全員で確認していくとよかったのではない。
- 国語科の要素は、毎回の授業で入れているつもり（やり取り、感想発表など）だが、さらに国語科と関連付けることが難しいと感じた。

Q5 今年度の全校研究へのご意見・ご感想、次年度への課題や改善案等を記入してください。

- 単元配列表の活用が大変勉強になった。
- 効果的な国語の題材、教材を共有できるとよい。
- 子供の言語能力の育成のベースは不易である。つまりは、豊かな言語環境と表現を受け止めてもらえる安心感や関係性の構築である。子どもにとらえに基づく教材の豊かさ求められていると思う。
- 国語科の担当と合わせた指導の形態の授業の担当が違っているので、研究授業を契機に、国語科の実態やねらいについて担当間で意見交換したり、支援を共有したりする実践が多く見られたのではないかと考える。国語科の内容を合わせた指導の単元の中で、集中的に取り扱うことは、「招待状づくり」「発表練習」など普段の学習でも行っていることがあると感じた。
- 年度初め、教育資料の作成、締切と観点別学習評価表や単元配列表の作成などが重なることがあったので、少し時期を調整できれば良い。学部研、見合う会は、学部の職員数にもよるかもしれないが、お互いに負担感を軽減できる形で行うと実施する意味が感じられると思う。
- 小さい学校のせんぼく校で、授業を見合う会は授業者や参観者などの負担が大きいと感じました。
- 学級数が少ないので、学部研、全校研だけにしてもよい。